

二人目の百寿の祝い 先山君子さん



▲お孫さん・ひ孫さんからたくさんプレゼントをいただき感激の先山様

「こんなに元気です」と先山さん

11月18日に地域交流スペースにて、ふくろうの郷では2人目になる先山君子さん(洲本市物部)の百寿のお祝い会を行いました。

先山さんのご長男・栄一様をはじめ10人をこえるご家族、花・木ユニットの入居者、職員とともに百歳のお祝いをしました。大漁旗、紅白垂れ幕が地域交流スペースを彩かにし、調理職員の心のこもった松花堂弁当、舟盛、ケーキが振る舞われました。

入居者自治会と、ご家族様からプレゼントがあり、先山さんも本人も喜ばれ、両手をあげて「皆さんありがとうございます。こんなに元気です」とお話ししてくださいました。

また、11月誕生者の藤本紀代様、坂口きぬる様、日外きく様も一緒に誕生祝いをを行い、プレゼントを贈呈しました。

公私ともに忙しい中、ふくろうの郷に来ていただいたご家族の皆さまありがとうございます。(花木ユニット 足立)

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム 郷会
 淡路ふくろうの郷
 広報委員
 洲本市中川原町中川原 28 番地 1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551
 ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>



▲ご家族、ユニットの皆さん、職員で先山君子さんの百歳をお祝いしました。(最前列中央が先山さん)

今年も師走を迎えました。この一年もまた、地域の方々を始め数えきれないほど多くの人たちの支えにより、淡路ふくろうの郷や法人関係の事業が成果を納めることができました。厚く感謝申し上げます。

そして、また来年も引き続き一層のご厚誼をお願い申し上げます。

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター
 洲本伊月病院院長

岡田雅博先生の講演



11月18日ふれあいセンターで初めての講演会が開催されました。洲本伊月病院院長、岡田雅博先生をお招きし、「老化に伴う神経と血管の病気」というテーマで講演いただきました。

当日は、老化に伴う病への関心や、岡田先生に命を助けてもらったというかたや、普段からお世話になっているというかたなど36名が参加されました。

前半はプロジェクターを使って、脳の老化について講演、後半は参加者からの質問に答えていただきました。会場からは笑いも起きるほど和やかな雰囲気が進み、岡田先生と直接お話しできて、感激された参加者もいらつしました。

岡田先生には多忙の中、ご講演をいただきありがとうございます。

また、今回企画して下さった北岡肇様、会場にてお手伝いいただいた皆様ありがとうございます。

(担当: 神代)

社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会と 淡路ふくろうの郷 2012年度上半期決算の概要

11月24日の法人評議員会・理事会において上半期の決算並びに一次補正予算が承認されました。
上半期の財政状況等は左記のとおりです。

1. 「淡路ふくろうの郷」の9月末収支状況

介護保険収入は、予算比101%（昨年比100%）、収入合計は、予算比102%（昨年比101%）となりました。
支出は、人件費が予算比92%（昨年比96%）で321万円（減）、事業費は予算比98%（昨年比97%）で69万円減、事務費は予算比116%（昨年比96%）で48万円減、支出合計は予算比96%（昨年比97%）で458万円減となりました。
その結果、収入の伸び悩みにもかかわらず、支出の減で収支差は1,276万円の黒字（昨年比694万円増）で推移しています。

3. 中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターに係る会計処理について

人件費については、中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターと居宅介護支援事業所桜ヶ丘（法人会計）は区分しました。
また、一期工事に係る工事費の会計処理については、法人所有の建物ではないため、基本財産には入れずに、固定資産に計上し減価償却することになりましたが、二期工事のこともあり検討が必要です。

2. 法人全体の経常収支差額（減価償却前）

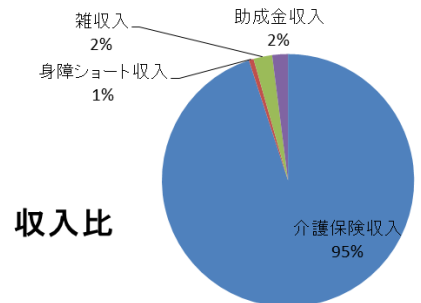
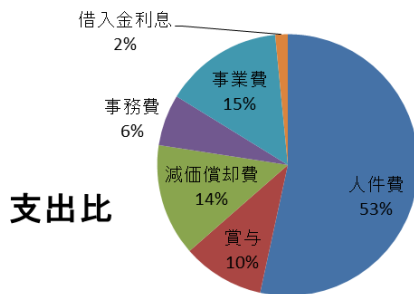
法人全体の経常収支差額（減価償却前）は、5,608万円です。

※「中川原ふれあいセンター」は、洲本市と中川原町連合町内会長との利用使用契約となっております。

4. 補正予算の編成

上半期の収支状況と下半期の事業計画等に即した補正予算を編成しました。

（総務・中村）



JICA 研修生「ろう者のための指導者」が淡路ふくろうの郷他に来訪

11月28日から29日まで海外から9名の研修生が、ろう者のための指導者研修として来所されました。
参加国はミャンマー・カンボジア・ケニア・ブラジル・ガイアナ・ヨルダンの6各国から9人。
大矢施設長の講演の後、入居者とふくろうバッチ作り、歓迎夕食会では、ミャンマーのスイ・トウ・トウンさんが「ようやく自由に言える民主化の中でがんばることあいつされまし



▲入居者の勝楽さん、北風さんに教えられて、ふくろうバッチづくりに挑戦

◆研修生からのメッセージ◆
○淡路ふくろうの郷を訪問し、高齢のろう者や障害者にたいへん行き届いたお世話をしていることに驚き感銘を受けました。研修の成果を国に持ち帰り活かします。ありがとうございました。

○（サミールさん・ヨルダン）
淡路ふくろうの郷のすべての方々に心より感謝しお礼申し上げます。研修で高齢者や全ての人々に対して心開いた事業を提供していることに感銘を受けました。人生最後の時を淡路ふくろうの郷で長生きしてほしいと思います。

（マーガレットさん・ケニア）

●実践報告●
**豊かな食生活をめざして
 ふくろう大学料理講座で学んだこと**

11月の「全国聴覚言語障害者福祉研究交流会」での報告より抜粋

■はじめに

人間が生きていく上で、「食事」は、必要不可欠なものです。食事とは、口から物を食べて、栄養をとるだけではありません。「おいしい?」「これ好き・嫌い」などといった会話も大切で、食生活を豊かにしていきます。生活を豊かにし、潤いをもたらすもの、それを文化といえます。その1つが食文化です。淡路ふくろうの郷では食事を提供するという固定的な考えではなく、入居者と食事を作ったり、食べた

りしながら教え合い、学び合い、交流しあうことを大切にしてきました。昨年4月より開講した「ふくろう大学料理講座」もその1つです。1年間の講座を通して、何を入居者から学んだのか考えたいと思います。

開所当初(2006年)、グラタンを提供した時に「初めて食べた」「神戸で食べたことがあるから懐かしい」などの意見のなかで、「これはお好み焼きの生焼だ」と全く口にされなかった方がいました。写真をみせ、料理の説明をするものの、納得されませんでした。今までグラタンを見ることも食べることもなかつたのでしよう。その時、「こんな料理もあるということ伝えてほしい」と切実に思いました。

■料理講座開講のきっかけ

淡路ふくろうの郷の長期入居者は60名。平均年齢が84才、入所前に在宅生活していた入所は27名です(2012年8月現在)。

開所当初(2006年)、グラタンを提供した時に「初めて食べた」「神戸で食べたことがあるから懐かしい」などの意見のなかで、「これはお好み焼きの生焼だ」と全く口にされなかった方がいました。写真をみせ、料理の説明をするものの、納得されませんでした。今までグラタンを見ることも食べることもなかつたのでしよう。その時、「こんな料理もあるということ伝えてほしい」と切実に思いました。

開所当時からユニットで昼食やおやつを入居者といっしょに作ったりしています。普段は控えめに生活されている入居者が手際よく包丁を使い、料理する様子を見た他の入居者から「すごいな」と言われ、照れくさそうにしながらも「どうだ」と言わなければの満足そうな表情をされておられました。そんな光景を見て、楽しく料理しつつ交流ができるような場があればいいなと思いました。また私達職員も入居者の味を知りたいとの思いがあった「ふくろう大学」に料理講座が加わりました。

■料理講座の目的

1. 料理を通じたユニット間の交流を知る
2. 料理を学ぶ(入居者の人生の味を知る)
3. 作る楽しみ・食べる楽しみを知る(食文化として)
4. 地域の旬の野菜を味わう

■講座の内容

- 昨年は12回(毎月1回)実施。
- 4月：女の料理講座「お花見弁当」
 - 5月：男の料理講座「どんぶり」
 - 6月：そら豆ごはん・新じゃがコロッケ
 - 7月：餃子(皮から手作り)



- 8月：細巻き寿司
- 9月：秋刀魚(七輪で焼いて)
- 10月：さつまいもごはん・柿なます
- 11月：鍋(4種類)
- 12月：柴山ハウスで忘年会「鍋」
- 1月：肉じゃが・雪花和え・みかん大福
- 2月：節分「まき寿司」
- 3月：終了式「お赤飯」
- 5月の男の料理講座は、男性入居者と男性職員で実施、4種類のどんぶりから好きなものを選んで作ってもらいました。職員も入居者も女性がいなかったからか「どうやって作るの?」「こうやで」と教えあひながら積極的に作業し、作ったどんぶりを食べて「おいしくできたと」喜ばれていました。
- 9月は七輪で秋刀魚を焼きました。普段の食事は頭も骨もない魚を使いますが、講座では尾頭付の1匹丸ごと。「炭のおいがい」「骨があつておいしい」ときれいに食べておられました。

■講座を支えてくれる皆さま

講座には、地域の方(梅干し作りの講師)。職員の友人・家族(講座の助っ人)。盲ろう通訳者(盲ろう者への通訳)など、多くの方々のご協力も頂きました。

■料理講座を通して

開講を通して、協力して一生懸命と取り組む姿や、料理ができる入居者同士の意欲向上(ライブル視)する姿、献立に参加入居者の郷土料理を盛り込んだとき「昔よく食べてたよ」と懐かしむ姿、普段の献立と違う料理内容に目をキラキラさせたり、普段なかなか会わない入居者同士が笑いながら取り組む姿が見られました。また講座のメンバーに入っていない方も飛び入り参加し手伝って下さることもありました。

職員と入居者の間でも「おいしね」「私この前これ作ってみたよ、失敗したけど(笑)」など、会話が弾みました。

■おわりに

料理講座の意義とは

人間にとって「衣・食・住」は必要不可欠で、まさに、料理講座は「食・住」に結びつくと思います。「食べる」「住む場」だけではなく、「食べる楽しさ」「刺激ある楽しい生活スタイル」に繋がるといふことです。「今日は何を作るらしいね」「一緒にいきましようか」「今日はよろしく」そんな会話が講座を通じて生まれ、入居者同士のつながりになってほしい。「講座まであと何日?!」待ち遠しいと感じてもらいたいと思います。



もちろん、講座を終えた後に必ず課題が残ります。その時は振り返り、次回に活かせばいい。たくさん失敗や課題と新しい発見を積み重ねながら、取り組んできました。

1年を経過し、料理講座は入居者や職員、講座を支えてくれる方、皆の間で「楽しかった!」「ありがとう!」「そんな言葉や笑顔が飛び交う場になっていきます。「作る楽しさ」が「食べる意欲・楽しさ」に繋がります。「刺激ある生活」が生まれ、「生きる意欲」「生きてよかった」そう感じてもらえる1つのきっかけとなり、生活が楽しく豊かになっていくことを願っています。これからもたくさんの方の笑顔が溢れる、素敵な料理講座にしていきたいと思えます。

(報告者:岩林・中畑)

**淡路聴覚障害者
センター便り**

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館3階

**長期入院者への支援
取り組みを全国へ**

第16回全国聴覚言語障害者福祉研修交流会 in 東京
11月17日～18日

安村さん91歳。大腿骨骨折で長期入院を余儀なくされ、ろう協、手話サークル会員が訪問支援している様子を、ふくろう新聞8月号で紹介しました。身寄りの少なく、また手話でのコミュニケーションがとりにくい方への医療面での支援の困難さなど、たくさん課題があり、是非この取り組みを討議したいとレポート発表を行いました。

人生の最後は「ふくろうの郷」の思いから支援を続け…

安村さんは仕事を辞めた後も



▲レポート発表する吉川相談員

就労支援B型「おのころの家」に通所し、得意な手作業をするなど、非常に働き者でした。しかし病院食が食べられず、体力も低下し、寝たきりとなり、体には点滴などの管が取り付けられました。未就学で手話をもっておらず、次々行われる医療的処置をどこまで納得できていたのか。社会的な死を意味する病院のベッドでの生活でなく、人生の最後は手話で話のできる「ふくろうの郷」で過ごさせてあげたいと、ろう協、サークルが交代で食事や面会など援助を続けました。こうした励ましの中で、医者も信じられないほどの回復力を見せ、ふくろうの郷への入所も決まった矢先、持病の心臓病が悪化し、11月15日残念ながら亡くなつてしまいました。



▲安村さんを見舞うろう協会員

**いつでもどこでも
手話通訳を**

三団体学習会(11・23)

淡聴協、手話サークルと法人の3団体で学習会が開かれ、約40名が参加しました。午前は「高松市の手話通訳派遣拒否に関わる裁判から」をテーマに高松市聴覚障害者協会の岡本勝己氏にお話をさせていただきました。高松市では派遣内容や派遣範囲が限られています。原告の池川洋子さんは市に対し、娘が希望している東京の専門学校への通訳依頼をしましたが、拒否されました。不服申し立ても却下され、これをきっかけに

15年間派の遣内容や範囲の拡大など要望を重ねても変わらない市の対応を不満とし、池川さんは勇気をもって裁判に訴える決意をされました。裁判に訴えますが、なかなか受け入れられない状況です。午後からは、淡路の派遣制度について淡路聴覚障害者センター、淡聴協から説明した後、グループに分かれ話し合いました。淡路では派遣内容(営利目的・宗教以外)や派遣範囲を広く認めています。高松裁判の結果は全国に影響します。全国の通訳派遣制度は統一されていません。地域によって不利益があるのは納得できません。「いつでも、どこでも」通訳を



▲講師の岡本氏も交え、「淡路の通訳制度について学ぼう!」と司会の橋詰さん

受けられる制度に変えるため、私たちも一緒に学び、市民にも周知していく運動が必要です。裁判は長期化しますし、多額の費用も掛かります。当日の参加者も応援しようとして支援カンパを行い、2万1658円を岡本さんに託しました。(鈴川)

**高齢者支援の
課題を共有して**

会場からは、センターの取り組みへの賞賛が寄せられると共に、地元でも同様の高齢者支援の問題を抱えていること、過剰な医療行為への疑問、ターミナルへの準備、介護保険制度の不備や高齢者福祉への行政の役割についても問いかけ議論し、課題を共有することができるとなりました。(吉川)

聴覚障害者の方へ



休日、夜間の緊急時の連絡は下記にお願いします。
携帯電話番号
090 - 5042 - 3850
Eメールアドレス
f1175@docomo.ne.jp

お知らせ

1月22日(火) 10:00~17:00
~こころのケア相談~
1人で悩まずに話にきてみませんか?

1月23日(水) 10:30~17:00
移動相談: 淡路市岩屋地区
午前: 岩屋保健福祉センター 午後: 家庭訪問

お問い合わせはセンターまで
TEL: 0799-24-3850
FAX: 0799-26-1175



アロマハンドマッサージ・・・癒されました。

「共に生きる集い」が淡路市の

「共に生きる集い」

11月18日(日)、「第29回
 「ふるさとセンター」で行われ、約300名の方が集まりました。このお祭りは、旧津名郡の教職員組合のみなさんが中心となり、「共に学び、共に生きる地域」を目指し、「様々な出会いのある場を皆で一緒に作る」ことを目的に開催されています。

多くの仲間や職員、家族会のみなさんが模擬店をされていて、特にタコ焼きのお店が大行列でした。私たちがいたいただきましたが、行列ができたのも納得の美味しさでした。

心が温かくなるお祭りでした。
 (担当…森岡)



「共に生きる集い」にて。売上は12,000円でした。

おのころの家

〒656-0025
 洲本市本町3丁目1-10
 清水マンション1F
 TEL・FAX 0799-26-0956

「地域ふれあいまつり」

11/10 (土)

きょうされん兵庫支部主催
 「第16回 地域ふれあいまつり」が神戸市北区の広陵小学校グラウンドで行われ、お

のころの家も初めて出店しました。

様々な事業所が参加されていて、その中には10月におのころの家の見学にお越しくださった「きょうされん利用者部会」のみなさんの姿もありました。

今年、今年度は聴障者関係団体の参加は、おのころの家だけでしたので、「ろう者のことや手話のことももっと知ってもらえるようなお店にしたら良かったね」と、思いま

(担当…森岡)

模擬店出店の参加事業所数 18
 企画ステージの参加事業所数 9
 地域ふれあいまつり参加者 約1,000人



地域ふれあいまつりの一コマ (広陵小学校)

「働く喜びを共有」

— 全聴福研レポート —

11月17、18日、「第16回 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会」が国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)で開催されました。

私も第5分科会「地域生活を支える」で、『おのころの家出張所 おのころ屋の取組みから』をテーマに、売上げを伸ばし、工賃に結び付け、働く喜びを分かち合うことを目指すレポートを発表しました。

おのころ屋は現在、焼菓子・パンの製造販売(移動販売は月

13ヶ所)を行っています。利用者者は4名(近々5名になります)。それぞれの障害程度に合わせた支援を行いながらの発注業務や会計処理などがあり、職員の過大な負担が大きな問題となっています。残業や持ち帰り仕事は当たり前、有給はおろか、代休さえもままならない状況です。

分科会で、よい解決策をご亭受いただきました。この事業所も抱えている問題は同じでした。他の事業所と力を合わせた問題解決への運動を痛感しました。
 (所長・橋詰)

発表に対する質疑

職員です。

Q: 「おのころ屋」は「おのころの家」とは別の事業ですか? また、それぞれの定員は何名ですか?

A: 「おのころ屋」は「おのころの家」の出張所です。利用者定員は、合わせて20名です。

Q: 職員配置はどうなっていますか?

A: 全員で8名です。その内2名が「おのころ屋」担当の

Q: 仲間の工賃はどうなっていますか? それぞれの時給は同じですか?

A: おのころの家の工賃は利用日数と作業収入により支払われますので、個人差があります。おのころ屋は時給による支給です。



続・地域を語る

第48回

易学の泰斗 多田鳴鳳師

能満山 松龜寺住職平松秀文

多田 鳴鳳(ただ めいほう)

(一七八四〜一八六三)易学者
(住居跡:安坂)松龜寺墓所

多田氏の初代新右衛門は沼島より安坂に来住、沼島でもその祖先多田七郎右衛門は沼島村の代々床屋を勤める。その子孫が安坂村の満所氏の床屋株を受け継ぎ、以後代々や安坂村の床屋をつとめ、この地(現特別養護老人ホーム ラガール付近)に住居。

鳴鳳は、多田氏第五代目で包助または侶助(ともすけ)と称した。天明四年(一七八四)の生まれで、安部氏(土御門家)の直弟子になり陰陽家相易学を学ぶ、江戸時代土御門家は安倍晴明の末裔で、暦の制作に携わってきた家柄である。鳴鳳も毎年土御門家に伺いその年の吉凶を占い奏上したといわれる。

彼の代表的著作、安政六年(一八五九)に刊行された『地相家相方位吉凶』(『湯地準則詳解』は「家相」の集大成である。

これは、その後の「家相」の基準となった。ここには、現在の家相の基本の大半が含まれていると言われる。

また、鳴鳳は、ため池の新修築や農争の調停もおこない、文明三年(一八六三)十月十一日七九歳で死去している。現在末裔が埼玉県に在住。

現在でも地元には、いくつかの逸話が残されており、地元の人々の信望が厚かったことが伺われる。

※次号は鳴鳳師の逸話のお話



鳴鳳師の著書の一部



鳴鳳師のお墓(松龜寺内の墓地)

安乎小学校との交流会



▲たのしかった交流会の最後にみんなで記念写真

毎年恒例になっている安乎小学校との交流会が 12月6日(木)に行われました。

児童たちは、入所者の前で自分の名前を手話で表現して、得意なことをそれぞれ披露してくれました。

「得意なのは柔道です」と披露をした児童さんに入居者さんはとても喜んで楽しまれていました。それが終わると、おやつ作りをしながらふれあいを楽しまれていました。

(相談:酒井)

年始ボランティアのお願い

- おせち料理もりつけ
1月1日(元旦) 9:00~
- 初詣
1月2・3・4日 13:00~15:30



○お問い合わせは、
TEL:0799-25-8550 FAX:0799-25-8551
メール fukurou-sodan2960@ever.ocn.ne.jp
担当 竹原まで

洲本総合庁舎内食堂から就労支援



▲11月23日開所式で参加者と歓談

特定非営利活動法人淡路障害者連絡会による就労継続支援 B 型事業所「アミアミ」は、平成24年11月1日、淡路県民局洲本総合庁舎内職員食堂の経営を受託し、モーニングやランチを提供。「お料理が好きなので楽しみ。掃除も頑張りたい」とアミアミの仲間たち。

開所準備に淡路ふくろうの郷も少しお手伝いさせていただきました。

看護師 募集中!

調理員(パート)も募集しています

- ◆給与・労働条件等、詳細は下記までお問い合わせください。
- お問合せ: 淡路ふくろうの郷(八木)まで
電話 0799-25-8550